

発達支援部会（22年度第1回）会議録

開催日時：平成22年10月18日（木） 9：30～11：30

場所：一宮市役所5階第2会議室

1. あいさつ

- ・福祉課長よりあいさつ
- ・事務局より発達支援部会発足の経緯の説明

今回、自立支援協議会の中に発達障害児者に対する検討の場として、新たな専門部会が発足しました。経緯としては平成21年に行われた個別支援会議の事例を分析したところ、全体の35%が発達障害の方であり、問題が多く取り上げられていることがわかりました。発達障害の方が成人し、問題が複雑化する前に幼少期から適切な支援をしてゆくことが特に重要であるのではないかと、ということから子どもに関する機関が集まって今後の一宮市の療育に関する取り組みを検討してゆくことになりました。

- ・部会長よりあいさつ

2. 委員の自己紹介と各機関の状況と課題

3. 議事

今後検討してゆく課題の整理

様々な検討課題（別紙参照）があるが、1つ1つをあわてず丁寧に解決してゆきたい。

部会としてまずは以下の3点から取り組んでゆく

（1）サポートブックの作成

サポートブックの活用は、各ライフステージをスムーズに繋げてゆく為の1つの手段として有効であり、また、以前より様々な会議や懇談会でも要望が出ている一宮市独自のフォームを制作するにあたって、どのような形態のものが良いのか検討してゆく

（2）乳幼児期の支援について検討

まずはライフステージの最初の段階として乳幼児期に焦点を当てて課題を掘り下げて検討してゆく

（3）委員の勉強会、研修の開催

委員が同じ方向を向いて議論を進めてゆく為には、研修や勉強会を通して研さんをはかったり、先進地域へ訪問して実際に取り組むを見学するなどして、足並みをそろえながら検討をしてゆく（サポートブックに関して）

- ・愛知県教育委員会特別支援教育課のホームページにサポートブックの雛型が出ているので参考に見てはどうか
- ・形態として活用しやすいものにしてゆきたい。日常的に使うのであれば、小型のものの方が活用しやすいが、「にじいろ手帳」サイズの分厚いものも情報がしっかり集約されており、就学などの節目には必要と感じる
- ・ブックへの記入は本来は親が書くもの。慣れていない方にとっては記入が難しい（パニックの様子表現方法など）。チェック項目を設けるなどして「記入しやすい」工夫が必要
- ・親御さんからの要望として、「自分を書けないから支援者に書いてほしい」という声もある
就学などの移行の際に、「新たに1から10まで全て説明するのが大変である」とのこと
- ・本来、サポートブックは「親にしかわからないことを知ってほしい！」という思いで作成されたもの。他者に全て「おまかせ」するものではないのではないか
- ・親が精神疾患などの障害をもってみえるケースも少なくない。その際はやはり他者が記入せざるをえないのではないか
- ・サポートブックの記入を通して、親も子どもの見方を学び、成長してゆくことが期待される。
基本的に親が記入するものとし、自分で書けない方には支援者がサポートする方法はどうか
- ・高浜市では研究指定市としてサポートブックをライフステージを通して活用した事例がある

→ サポートブックは必要で活用していこう、という意見は全員一致であるが、
形態や記入方法については引き続き次回も検討してゆく

(乳幼児期の支援について)

- ・各機関よりデータを持ち寄り、データに基づいて問題点を見出してゆきたい
まずは乳幼児期から話し合っただけでゆきたいので、次回は保健センターにデータの提供をしていただき、議論を進めてゆく

4. 次回について

- ・次回以降会議の日時を定例化する
→ 第3水曜日の9:30～に決定
- ・次回は勉強会開催
日時：11月17日(水) 10:00～12:00
場所：尾西庁舎西館3F 第3会議室
定員に余裕があるので、各機関1～2名職員を連れてきてください
- ・12月は第2水曜(12月8日)開催

発達支援部会（22年度第2回）会議録

開催日時：平成22年11月17日（水） 10:00～12:00

場所：尾西庁舎西館3F 第3会議室

1. 勉強会

- ・内容：「自閉症の世界を知ろう！」～彼らのサポーターになって欲しい～
疑似体験を通した障害特性の啓発

○参加者の感想

- ・とてもわかりやすかった。教員の研修の機会にぜひ来ていただきたい

（教育委員会）

- ・以前にも同じ研修を何度か受けたが、改めて自分の支援を見直し、初心に帰ることができた
- ・「わかっているけどやってしまう」ことがあるので自分の支援を振り返り、反省した。

2. 次回について

○日時：12月8日（水）9:30～11:30

場所：未定

○サポートブックについて内容を具体的に検討してゆく

- ・サポートブックの形態について検討した結果、一宮市のニーズには「にじいろ手帳」の形態が合っていると考えられる。今後は「にじいろ手帳」をベースに必要な項目を話し合いながらフォームを作成してゆく
- ・各委員は次回までに配布した資料を見て追加、削除する項目を考えておいてください